

平成 29 年度 第 1 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

上坂 貴志 栗島 聡

Activity Report: Committee of Study Groups

Takashi Uesaka Satoshi Kurishima

研究委員会では現在 7 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 29 年 2 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

本研究会は、QFD (Quality Function Deployment : 品質機能展開) の考え方を援用することにより、情報の共有、知識の蓄積などを可能とする論理的なプロジェクト計画作成のための手法、方法論を検討することを目的に研究を行って来ました。最近では、QFD のみならず、プロジェクトにおける情報の定量化やシステム設計、さらにリスク分析など、QFD と関連の深い分野に関しても積極的に取り組んでいます。研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会員に奨励しています。現在は、プロジェクトの定量的管理を中心とした研究テーマでの議論を行っています。

<12 月 20 日 : 研究会開催>

メンバーが進めている研究について相互にディスカッションいたしました。テーマはプロジェクトチームの成果に対するスキル、性格を考慮したメンバー構成の影響でした。プロジェクト型ワークショップで収集したデータに対して性格の同質なチーム、多様性のあるチーム、マネジメント型メンバーの所属するチームなどのチーム間の比較方法、比較した結果について議論を進めました。

<今後の予定>

2 月以降も毎月研究会を開催する予定です。産学共同で、より深い議論を行うためにメンバーを募集しています。是非皆様方の研究への参加、また皆様方からの情報の提供をお待ちしています。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所)

プロジェクトの事例を収集し、そこから効果的

なリスク・マネジメントの研修方法について検討をしています。また、新規性のあるリスク・マネジメント研修の内容について検討をしています。

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 (主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

【問い合わせ先】 yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

(4) PM 人材育成研究会

(主査: 池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

プロジェクトに影響を及ぼすステークホルダーについての議論を継続して行っています。

12 - 1 月度の研究会では人事制度改革プロジェクトのその後の議論を行いました。プロジェクトの目的は

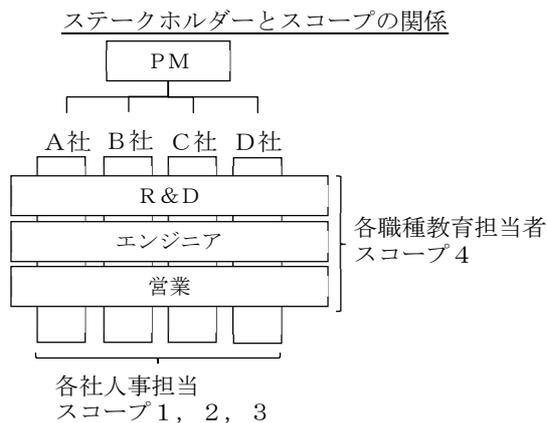
- 時代に即した人事制度の設定 (マイナンバーなど)
- グループ会社間の人事制度の統一化
- システムの統一化

でしたが、各ステークホルダーとスコープの整合が取れていなく、スケジュール遅れという大きな問題が発生しました。

このプロジェクトでの主なスコープ及び実現の優先順位は以下のようになりますが、プロジェクトの承認時に全スコープを実施することを条件にプロジェクトの実施が認められました。

1. 人事管理・給与計算
2. 申請・情報公開
3. 就労
4. タレントマネジメント

PM としては各社の人事担当だけではなく、各社を横断した職種ごとの教育担当を含めたステークホルダーをマネジメントする必要性がでてきました。(下図)



PM は人事出身者であり、プロジェクト要求も明確であり、人事担当のステークホルダーをマネジメントし易かったのですが、教育担当のステークホルダーをまとめるのが難しく、要求をまとめるのに多くの時間を費やすことになりました。ここで検討すべき事は、ステークホルダーとスコープの関係を特定し、役割/責任をどのように明確化することができるかです。特に今回のようにマトリクス的な関係の場合にはより複雑な関係となります。今後はプロジェクト目標、母体組織、個人の思いをどのようにマネジメントしていくかを議論していく予定です。

今後の活動：

2 月度 プロジェクトに影響を及ぼすステークホルダー (続き)

【問い合わせ先】 pmcom2016@freeml.com

(5) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として、毎月 1 回の定例会と年 1 回の国内外各地におけるワークショップを中心に活動しています。

メンタルヘルス不調に陥らない為にはどうしたら良いか。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。

定例会は原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。5 名から 10 名程度のメンバーが参加し、プレゼンター (持ち回り) が議題を提示します。参加メンバーの対話を通してメンタルヘルス問題の予防策となる知恵の創造を図ります。

<12 月 21 日：定例会開催>

2016 年度のふりかえりと 2017 年の活動計画を

話し合いました。



お寿司とピザを同時に頼むのは、お腹がはちきれないので控えようという結論をあらためて確認しました。

<今後の予定>

1 月 25 日：定例会開催予定

(2017 年 活動計画立案)

【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(6) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

現在の学習・研究テーマとしては以下の 4 つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析

9 月から新たなテーマとして「ソフトウェアメトリクス統計分析入門」(小池利和著)の書籍を対象とし、学習と研究を行っています。

この書籍では具体的な事例でメトリクスの活用を学ぶことができます。例えば、

「平均が 0.051 で標準偏差が 0.029 という日本の金融・保険業界の生産性分布において、対象プロジェクトの 0.09 が上位何%の位置づけとなるか」

という課題では、生産性が正規分布に従うという前提で、標準化データ (Z スコア) = $(0.090 - 0.051) / 0.029 = 1.34$ を計算し、Excel 関数の

NORMSDIST を使って、

$$\text{上位\%} = 1 - \text{NORMSDIST}(1.34) \approx 9\%$$

と計算する方法が紹介されています。

研究会ではこれらの事例を題材に、正規分布ではなく対数正規分布に従う場合はどうするかといった議論を行っています。

要求の仕様化技術を学びたい方、基本的な統計を初歩から学びたい方、または、ビッグデータとそのデータ処理技術に興味がある方には参加をお勧めします。

<今後の予定>

会合は1回/月を目安に開催しています。

当研究会では現時点までの活動で、Capers Jones 氏の見積のすべて、Excel 統計、コスト評価知識体系 (CEBoK)、要求の仕様化技術、R 言語による分析事例、データマイニング手法などのコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

<問い合わせ> kajiyama@yhat.co.jp

(7) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査: 中村 太一 国立情報学研究所)

現在、暫定的に隔月の例会開催になっており、1月19日に第39回の例会が開催されました。今回は、参加者全員から近況報告を兼ねたフロネシスに関する話題の提供をいただきながら活発な意見交換が成されました。その後、今回のゲストスピーカーとしてお招きしました国立研究開発法人科学技術振興機構のプログラムオフィサーである澤源太郎氏から、澤氏の長年に渡るプロジェクトのご経験からの知恵ある実践の体験談と、“プロジェクトの成功は PM のせいではない、メンバー全員がうまくやったから。プロジェクトの失敗は PM およびその上司のせい”，などの示唆に富む言葉を沢山いただきました。ミッションクリティカルなプロジェクトを指揮するプロジェクト・マネジャーがどんな知恵をもってプロジェクトを実践していくかについて有意義なディスカッションが展開されました。

(次回は、2017年3月16日を予定しています。)

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】 pmKenkyu@jp.ibm.com

研究委員会委員長 上坂 貴志

研究委員会委員 笠崎 裕子/福村 文裕